

十和田 DMAT 令和 6 年能登半島地震対応報告

業務課 医療支援室 1 畠山 徹

当院では現在、医師 1 名、看護師 4 名、業務調整員 3 名の計 8 名が資格を取得し、災害時には各被災地へ派遣され被災地内での活動、当院が被災すれば院内の災害対応を行います。また災害に備え日々の訓練や災害時の医療体制強化に取り組んでいます。令和 5 年度は青森県総合防災訓練、東北ブロック DMAT 参集訓練に参加するなど、訓練を重ねてきました。令和 6 年元日に発生した能登半島地震では、1 月 6 日午後 11 時に青森県 DMAT へ派遣要請が発出され当院から 3 名の DMAT 隊員が出動しました。以下に当時の活動について報告いたします。

※病院ニュース「さわらび」 令和 6 年 2 月 5 日号掲載記事より転載



令和 6 年能登半島地震対応報告

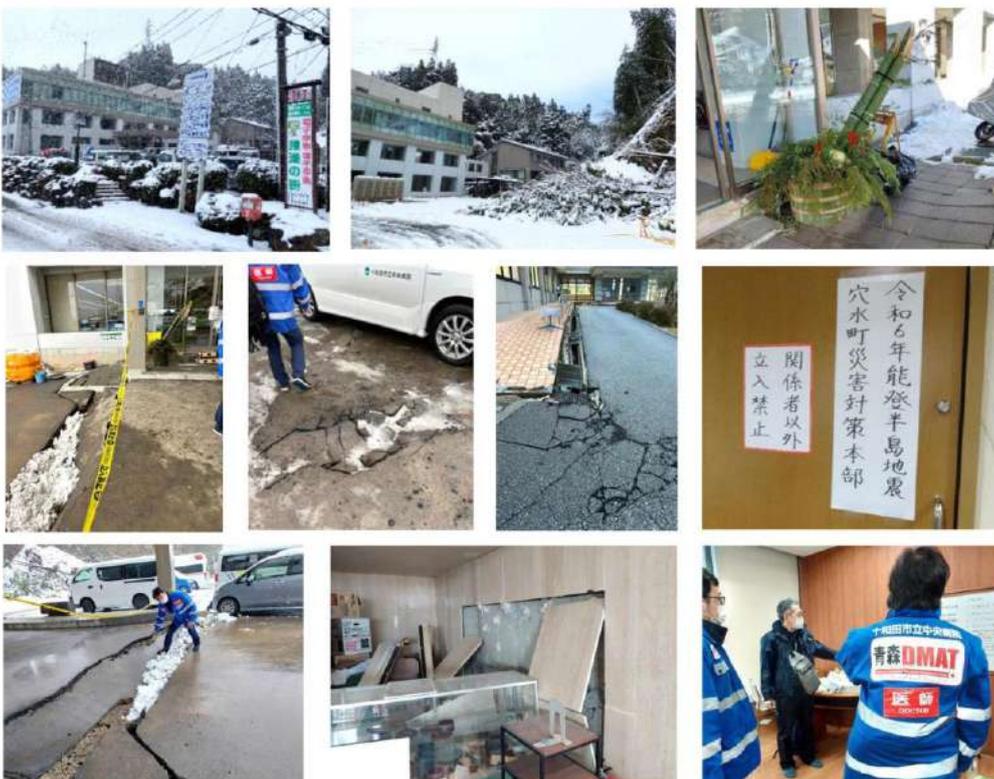
外科診療部長 藪内 伸一
 十和田 DMAT 隊長 根岸 由紀子
 外来看護師 奥山 勝俊
 薬局調剤主任

令和 6 年元日に石川県能登地方で M7.6 最大震度 7 の地震が発生しました。1 月 6 日午後 11 時に青森県 DMAT 派遣要請に従い当院からも 3 名の DMAT 隊員が出動しました。参集拠点本部からの指示で穴水町役場内(のちに保健センターへ移動)の保健医療福祉調整本部の本部要員として活動しました。



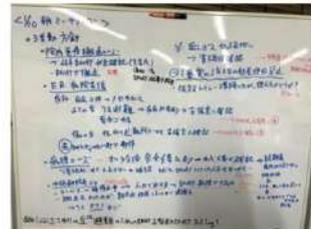
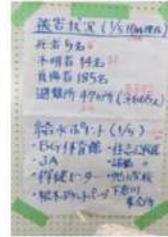
被害状況は・・・

穴水町役場玄関先には柵が倒れたままの状態、玄関口や駐車場アスファルトには亀裂と段差が生じていました。庁舎内は壁の崩落があり、また裏手の山は土砂崩れと、地震による甚大な被害状況が確認されました。



地域の住民は・・・

断水により衛生環境が悪化しているなか、住民は避難生活を強いられていました。地域の静観収集と医療ニーズについて把握するため、活動エリア分担の調整を行い、保健師やJMATなどの支援チームと協力し活動しました。避難所や施設被害状況が明らかになるにつれ、新型コロナやインフルエンザ感染者が増えていることが半明するなか、感染拡大を防ぐために巡回活動を強化し手指消毒や口腔ケア等の指導をしました。車内で生活している方々もあり、支援が行き届いていない状況も確認されました。



東日本大震災や熊本地震などの大災害の教訓から、巨大地震や自然災害に対応すべく、多くの災害支援チームが発足し活動しています。私たちDMAT隊は活動期間が終了すると帰宅できる場所がありますが、避難者は戻る場所がない不安と苦痛な環境で生活しています。一つ一つのチームは小さいですが集合することで大きな力となります。DMATの活動が少しでも被災地域支援につながれば幸いです。一日も早い復興をお祈りいたします。



○令和6年能登半島地震対応について十和田市長に報告



令和6年能登半島地震において被災地で行った医療支援活動内容について、1月18日小山田久市長に報告をしました。当院より丹野病院事業管理者、中谷事務局長、当院DMAT隊長 藪内外科診療部長が市長室を訪問し、出席された小山田市長、北館副市長にスライドや現地新聞の号外をお示ししながら、現地での活動内容や被災状況について報告しました。

○令和6年能登半島地震対応について十和田消防庁舎にて講演



十和田地域広域事務組合消防本部 寺地消防長より依頼があり、2月22日当院 DMAT 隊長 藪内外科診療部長が十和田消防庁舎にて「石川県能登半島地震 DMAT チーム活動報告」と題した講演を行いました。講演では十和田消防署、十和田湖消防署、湖畔出張所、及び六戸消防署から集まった43名の方々に、災害現場の現状や活動内容を報告するとともに、活動を通して感じた課題についてお話ししました。

○「令和6年能登半島地震に係る院内緊急報告会」の実施



1月23日と1月31日に中央病院講堂にて院内職員を対象にDMAT 隊長藪内外科診療部長が能登半島地震でのDMATチームの支援活動および現地の状況を報告いただきました。聴講者は2日間で医療職、コメディカルあわせて111名が参加しました。